

研究機関：広島大学

研究課題名	原発性肝癌患者における治療成績についての検討に関する研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器・移植外科学 教授 大段秀樹
研究期間	2019年4月8日(倫理委員会承認後)～ 2025年12月31日
対象者	1991年1月から2030年12月の間に、広島大学病院消化器・移植外科で原発性肝癌に対して肝切除術を受けられた患者。
意義・目的	肝細胞癌をはじめとする原発性肝癌の多くは多くは5大癌疾患の一つであり、癌関連死においても2番目に多く、比較的予後に大きく影響します。臓器不足の結果、肝移植は限定されており、外科的切除が治療において最も効果的です。根治切除後も高い再発率の観点から、長期予後は近年の治療進歩にも関わらず、いまだ十分ではありません。したがって、信頼性のあるシンプルな予後マ

ます。